

やまと の 未来の学園づくり かわら版

vol.5

日時：令和5年2月1日（水）18:00～19:30
場所：光市立大和コミュニティセンター



第3回目のワークショップとして、「協働的な学びの確保～小学校の再編について～」の話し合いを行いました。協働的な学びを確保する手法として、「合同学習の日常化（パターン①）」「4小学校の再編（パターン②）」の2つのパターンを比較検討し、さまざまな角度から意見が交わされました。今回のワークショップでは38名の参加がありました。

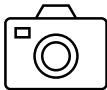
第3回ワークショップのプログラム

- 前回までの振り返り
今日のテーマについて（説明）
- ワーク 意見交換、整理
- 共有、報告



最初に、現在行っている合同学習や、小学校の再編についての説明を聞きました。





グループの話し合いの成果（一部）



協働的な学びの確保について、話し合った結果の報告を行いました



発表内容（一部）

| 班 | 発表内容 |
|---|---|
| 1 | ●小学校同士がこんなに合同学習していることに驚いた。 ●合同学習のメリットが最初にたくさん出た。 ●4小が1小になったら、先生の数が減るのではないか。 ●今後に向けて、4小の状況をしっかり把握してほしい。 |
| 2 | ●地域の歴史はちゃんと伝わっていくのだろうか。このあたりは今、やまと学園として動き出しをしている。 ●一人ひとりの個性や資質をどう引き出していくか、が重要。 |
| 3 | ●子どもを第一義に考えたとき、パターン②で小学校が先にくつついた方が、やりやすいのかな、というところで話が終わった。 |
| 4 | ●岩田・三輪は、交流が少なく、そもそも交流があることをご存じない。 ●4小学校を1つに再編するには、文化の違いをうまく水合わせしなければ。 ●教員の負担が大きいので、教育委員会のフォローをしっかりと。 ●4小がいきなり一緒にになって、先生がポンと減ったら、あまりうまくいかないのではないか、というのが最終的な結論になった。 |
| 5 | ●合同学習を充実するには、環境が整っていないといけない。 ●一番は子どもたちが、毎日いろいろな子と接することが、楽しい時間になるのではないか。 ●地域の方のかかわりも増えるし、文化を学べるチャンスも増える。 ●4小が1小になることが良いのではないか、という話になった。 |
| 6 | ●少ない人数だとどうしてもできない授業（体育）がある。 ●束荷神舞や石城太鼓など地域の伝統芸能が、4小から1小にしたとき、どうなっていくかが課題として出た。 ●願いとしては、早めに合同化して一緒に子どもたちが学べること。 |
| 7 | ●何よりも、もうすでに学級が1人の学校もある。1日も早く、多くの子どもたちと一緒に関わりながら授業を、という保護者からの願いがあった。 ●それを考えたら、やまと学園はすぐにでも開始した方が良いのではないか、という意見でまとまりつつあった。 |



質問への回答を行いました。
(学校教育課
門岡主幹)

おわりのあいさつ
大事な議論が出来ました。部会でさらに深めていきたいと思います。
学校運営部会 河本部会長
(大和中学校校長)



次回のごあんない
(第4回ワークショップ)

日時：令和5年3月4日（土）

10:00～11:30

場所：大和コミュニティセンター（大ホール等）

お問い合わせ：光市教育委員会 教育総務課管理係（担当：清水）

T E L : 0833-74-3601 F A X : 0833-72-7202